

## 踏 み 跡 < My mountains >

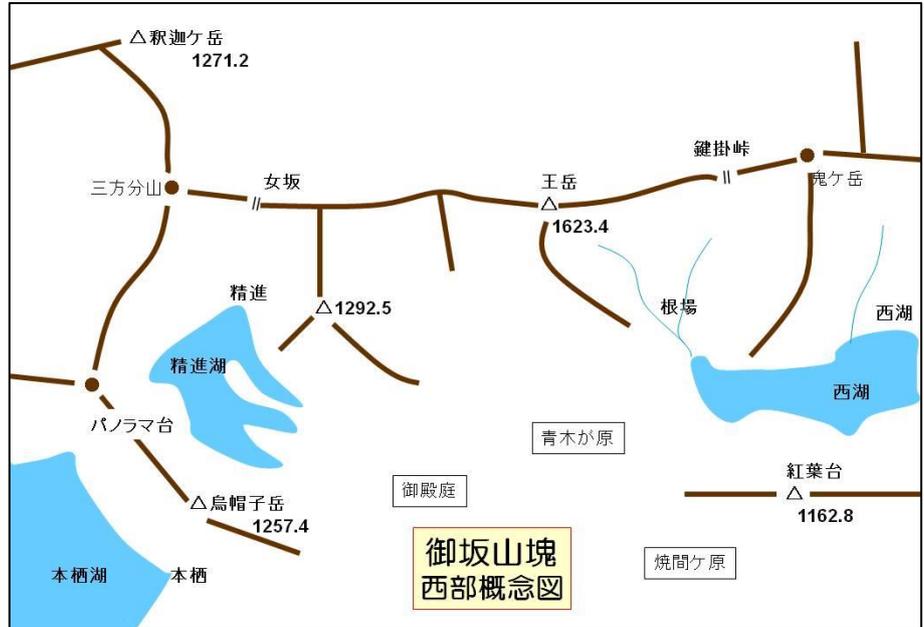
御坂	根場から王岳を経て精進湖へ	No. 104
----	---------------	---------

昨年秋からばちばち歩き始めた御坂の山々。

山梨県下には山は数々あれど、決して派手に騒がれるわけでもないが、知る人ぞ知るなかなか良い山が沢山ある。奥秩父の前衛峰の数々、南アルプスの前衛峰の数々、富士を取り巻く天子山塊、道志山塊……。

御坂の山もそう言った地味な存在の山のうちに数えられる。さらに御坂の山のうち、三つ峠山以外の山はまったく静まり返った山である。富士の真北を東西に走る稜線は富士を見るのには絶好かつ手軽な場所だし、奥秩父、ハケ岳、南アルプスなどの大きな山が雪化粧する季節には、実に放っておけない山である。

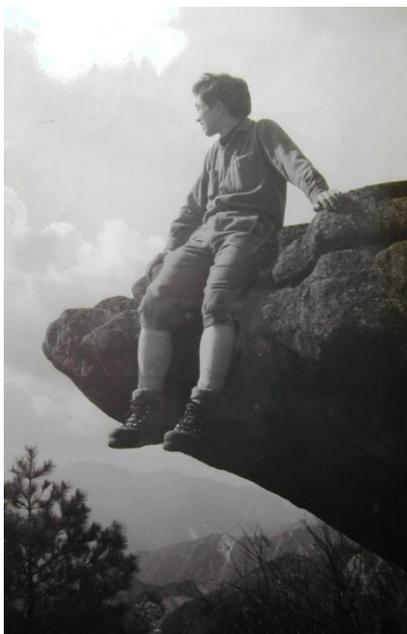
今回は石関、阿部の二人が同行することになり、夜行で行くことになった。



新宿発23時45分長野行。(国立~河口湖 350円)

昭和43年2月11日

大月1時16分着、富士急行は2時33分発。  
河口湖駅着3時32分、駅の中で朝食(ぞうに)。  
食事の後で駅前の売店に入りスケートバスの客とともにストーブにあたって暖を取りながら時を稼ぐ。  
根場(ねんば)行のバスは6時58分発。(100円)  
御坂の山の楽しさ、バスの車窓から見る雄大な朝



の富士。

バスは根場の

集落の入口までしか入らない。7時50分、台風の被害による土砂崩れで集落全体が埋まってしまい、今やその復旧工事の真っ最中の集落跡を歩き始めた。

廃墟と化した集落を通り抜けて沢沿いの道に入る。やがて道はなくなり、涸れた沢に入り富士を見ながらしばしの藪こぎ。

稜線に飛び出て数十分ほど西に進むと日あたりがよく見晴らしも良い、昼食をとるのには絶好の草原が見つかった。11時、展望をおかずにして昼食。草原の中ほどの高いところには犬の顔の形をした大きな岩があり、申し分のない展望台となっている。(左の画像) 目の前の富士は言うまでもなく白く優しく、そして逞しい姿。その広大な裾野に御殿庭、青木ヶ原。それよりもさらに低いところには、富士を取り巻くように本栖湖、西湖、河口湖、山中湖が。富士の右肩には遠く南アルプスの連山を

## 踏 み 跡 < My mountains >

望むことができる。

一時間半ほどの昼食と休憩の後、12時40分出発、稜線をさらに西へ西へ。

王岳(1623m)13時25分。山頂にある石塔が山名の起源らしい。富士は半身を雲の中に隠してしまった。女坂峠という味な名前の峠道(1210m)を精進湖側に下る。別名「阿難峠」とも言われたこの峠、北側の道を女坂と言ったことから女坂峠という名になったらしい。武田信玄がしばしば越えた峠として、いくつかの伝承があるようだ。

薄ねずみ色に凍結した精進湖湖畔に下りた時はもう短い冬の日が終ろうとする17時だった。

日没後の黒々とした空に、刃物のように冷たく鋭い富士の眼差しを受けながらバスで河口湖駅へ。(110円)

河口湖駅から18時25分の電車に乗り、大月発19時38分の中央線で帰った。(河口湖~国立 350円)

左足首の捻挫が完治しないうちに歩いたので、足が痛くてたまらない。しばらくは完治することに専念せねば・・・と反省の山行にもなってしまった。

以上

(修正・更新:2023年12月)